

医療現場の感染管理を担う 看護師の思いを共有しよう

清水宣明

愛知県立大学看護学部微生物学・感染制御学、コミュニティーケアシステム教授

今年度のインフルエンザの流行がどのようなものであるかは、終息してからの全体の様子のみてみなければ何とも言えませんが、連日のように大きな院内感染の発生や、そこでの不幸な結果が伝えられています。今回は、まさにその医療現場の最前線で奮闘している感染管理認定看護師の方々に、現場での取り組みや思いを自由に書いていただきました。

小児領域におけるインフルエンザウイルス院内感染対策について



地方独立行政法人
福岡市立病院機構
福岡市立こども病院
感染対策室副室長
／感染管理認定看護師
永田由美

1. 当院の概要

福岡市立こども病院は、小児総合医

療施設として、とくに新生児医療、先天性心臓病を主体とする小児高度専門医療や、小児地域医療、周産期医療の拠点として、一人でも多くのこどもが健康を取り戻せるよう力を注いでいる。2014年11月に病院が移転し、病室のほとんどが個室対応となり、感染設備においても充実させることができた。

2. 小児患者の特徴

小児は、くしゃみや咳をする際に手で口を覆うなど、衛生行動習慣獲得途中の患者も多く、医療従事者が不用意に呼吸器分泌物に曝露することもある。また、日常生活行動のほとんどにおいて援助を必要とし、抱っこ・おむつ交換など、身体的な接触が濃厚である。小児医療領域において、標準予防策の遵守は、医療従事者を防御するため、また医療従事者が媒介者になり患者間へ拡大させないために重要な対策となる。

3. 小児のインフルエンザ感染

インフルエンザ感染症は、一般的には外来治療や対症療法で対応できる疾患である。しかし、各種合併症(重症脱水・脳炎・脳症・心筋炎など)を合併した場合は、入院治療が必要となる。また中でも乳幼児は、免疫力が未熟であり一気に重症化することや、呼吸器系の未熟さから、仮性クレープや細気管支炎の原因になり、呼吸器障害が急速に進行し、人工呼吸器管理など集中治療が必要になることもある。

4. インフルエンザ感染症に対する 当院の取り組み

(1)医療スタッフへの情報提供

院内で発生した感染症や、市中で流行している感染症情報を、スタッフがいつでも閲覧できるよう、電子カルテトップ画面に掲示している。インフルエンザにおいては、感染症発生動向調査を参考に県内の定点あたりの患者数が1.0を超えた場合、注意報を出し注